

公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2024年度

東京大学大学院医学系研究科

目次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1. 修了要件	1
	2. 履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2～3
3. 時間割		4
4. 履修モデル		5～8
	「公衆衛生行政・管理」	5
	「保健アナリスト・コーディネーター」	6
	「臨床疫学・アウトカム評価」	7
	「医療情報・臨床工学」	8
5. シラバス		9～53
6. 公共政策大学院との合併科目について		54～56
7. 国際保健学専攻との合併科目について		57～61
8. 公共健康医学専攻成績評価規則		62

日 程	
S P Hガイダンス	4月 1日 (月)
入進学者ガイダンス	2024年度 不開催
大学院入学式	4月12日 (金)
S 1ターム	4月 5日 (金) ~ 5月 31日 (金)
定期健康診断	4月中旬~6月中旬
S 2ターム	6月 3日 (月) ~ 7月29日 (月)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬~下旬 ----- 希望調書提出 : 7月上旬~中旬
夏季休業期間	8月 1日 (木) ~ 9月30日 (月)
A 1ターム	10月 2日 (水) ~11月27日 (水)
A 2ターム	11月28日 (木) ~ 1月31日 (金)
Wターム	2月 3日 (月) ~ 3月 7日 (金)
S P H課題研究論文	題目届提出期限： 11月14日 (木) ----- 論文提出期限： 12月13日 (金) ----- 発 表 会： 1月10日 (金)
学位記授与式	未定

時 限	1 時 限	8 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5
	2 時 限	1 0 : 2 5 ~ 1 2 : 1 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 4 5
	4 時 限	1 4 : 5 5 ~ 1 6 : 4 0
	5 時 限	1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 3 5
	6 時 限	1 8 : 4 5 ~ 2 0 : 3 0

1. 授業科目の履修について

1. 修了要件

コ ー ス		1年コース	2年コース		
標準修業年限		1年	2年		
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上			
修了要件	必修	①A：1科目+B：5科目の計6科目を履修			
		A：必須科目			
		B：下記の5つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計5科目(各分類1科目以上、計5科目以上履修も可)			
		科目番号	科目名	単位	
		41418113	医学データの統計解析	2	
		分類	科目番号	科目名	単位
	1	41418111	疫学研究と実践	2	
		41418115	医学研究のデザイン	2	
	2	41418211	精神保健学 I	2	
		41418213	健康教育学	2	
	3	41418218	医療倫理学 I	2	
		41418220	社会と健康 I	2	
		41418316	法医学・医事法学	2	
	4	41418311	健康医療政策学	2	
		41418312	医療情報システム学	2	
	5	41418222	産業保健の理論と実践	2	
		41418322	環境健康医学	2	
		② 課題研究 (6単位) (2年次に履修申請すること)			
	選択科目	①選択科目(1年コースの課題研究は選択科目扱い) ②他専攻・他研究科(特に公共政策大学院)科目(8単位まで)			

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。(ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。)

2. 履修手続き

下記期間内に、学務システム(通称:UTAS)で履修登録を行ってください。

<参照> <https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/campusportal.do>

	S1/通年/集中	S2	A1	A2	W
履修登録期間	4/5~4/19		10/2~10/15		
履修登録修正期間	5/30~6/7(通年を除く)		11/18~12/4		2/3~2/7※

※履修登録追加期間

2024年度公共健康医学専攻開講科目一覧

頁	科目番号	授業科目	単位	ターム	曜日	時限等	担当教員	
9	41418111	疫学研究と実践 Epidemiological Research and Practice	2	S1・S2	金 Fri	2	村上 健太郎 MURAKAMI Kentaro	教授 Prof.
10	41418112	予防保健の実践と評価 Practice and Assessment in Public Health	2	夏季 Summer	集中 Intensive	2~4	村上 健太郎 MURAKAMI Kentaro	教授 Prof.
11	41418113	医学データの統計解析 Statistics Analysis of Medical Data	2	S1	木 Thu	3・4	松山 裕 MATSUYAMA	教授 Prof.
12	41418114	医学統計学演習 Practicum in Medical Statistics	2	S2	木 Thu	3・4	大庭 幸治 OBA Koji	准教授 Assoc.
13	41418115	医学研究のデザイン Design of Medical Research	2	S2	火 Tue	3・4	松山 裕 MATSUYAMA	教授 Prof.
14	41418116	臨床疫学 Clinical Epidemiology	2	S2	水 Wed	1・2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
15	41418117	臨床疫学・経済学演習 Clinical Epidemiology Exercise	2	A1・A2	木 Thu	3・4	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
16	41418118	保健医療経済学 Health Economics	2	S1	水 Wed	1・2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
17-18	41418120	医療コミュニケーション学 Health Communication	2	S1	火 Tue	3・4	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
19-20	41418122	医療コミュニケーション学演習 Health Communication Practice	2	S2	水 Wed	3・4	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
21	41418124	医療技術評価学演習 Seminar in Healthcare Technology Assessment	1	A2	木 Thu	2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
22	41418126	臨床医学概論 Overview on Clinical Medicine	1	S1	木 Thu	2	康永 秀生 YASUNAGA Hideo	教授 Prof.
23	41418127	医学研究データマネジメントとCDISC標準 Medical research data management and	1	A1	火 Tue	3	木内 貴弘 KIUCHI Takahiro	教授 Prof.
24	41418128	がん疫学 Cancer Epidemiology	1	A1	水 Wed	3	井上 真奈美 INOUE Manami	連携教授 Partner Prof.
25	41418211	精神保健学Ⅰ Mental Health I	2	S1・S2	火 Tue	5	西 大輔 NISHI Daisuke	教授 Prof.
26	41418212	精神保健学Ⅱ Mental Health II	2	A1・A2	火 Tue	5	西 大輔 NISHI Daisuke	教授 Prof.
27	41418213	健康教育学 Health Education	2	A2	金 Fri	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki	教授 Prof.
28	41418214	健康社会学 Health Sociology	2	A1	金 Fri	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki	教授 Prof.
29	41418218	医療倫理学Ⅰ Biomedical Ethics I	2	S1	木 Thu	5・6	瀧本 禎之 TAKIMOTO	准教授 Assoc.
30	41418219	医療倫理学Ⅱ Biomedical Ethics II	2	S2	木 Thu	5・6	瀧本 禎之 TAKIMOTO	准教授 Assoc.
31	41418220	社会と健康Ⅰ Society and Health I	2	A1	木 Thu	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki 鎌田 真光 KAMADA Masamitsu	教授 Prof. 講師 Lecturer
32	41418221	社会と健康Ⅱ Society and Health II	2	A2	金 Fri	3・4	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki 鎌田 真光 KAMADA Masamitsu	教授 Prof. 講師 Lecturer
33	41418222	産業保健の理論と実践 Occupational Health: Theory and Practice	2	A1	水 Wed	1・2	橋本 英樹 HASHIMOTO Hideki 大久保 靖司 OKUBO Yasushi	教授 Prof. 教授 Prof.

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	ターム	曜日	時限等	担当教員	
34	41418223	保健医療人材育成学 Human Resource Development for Health	2	S1	火 Tue	1・2	大西 弘高 ONISHI Hiroataka	講師 Lecturer
35	41418224	プライマリヘルスケア学 Primary Health Care	2	A1	火 Tue	1・2	大西 弘高 ONISHI Hiroataka	講師 Lecturer
36	41418311	健康医療政策学 Health Policy	2	A1・A2	月 Mon	5	東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
37-38	41418312	医療情報システム学 Healthcare Informatics	2	S1	金 Fri	3・4	大江 和彦 OHE Kazuhiko	教授 Prof.
39-40	41418313	医療情報システム学実習 Practice in Healthcare Informatics	1	S2	木 Thu	1・2	大江 和彦 OHE Kazuhiko	教授 Prof.
41	41418316	法医学・医事法学 Forensic Medicine and Medical Law	2	S1・S2	月 Mon	3	榎野 陽介 MAKINO Yosuke	准教授 Assoc.
42	41418320	健康危機管理学 Public Health Preparedness	1	S1	月 Mon	1・2	東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
43	41418321	保健行政・健康危機管理学実習 Health Administration & Public Health Preparedness Exercise	2	夏季 Summer	集中 Inten sive		東 尚弘 HIGASHI Takahiro	教授 Prof.
44	41418322	Environmental Health 環境健康医学	2	S1・S2	金 Fri	5	Yoonhee Kim	准教授 Assoc.
45-46	41418323	公共健康情報学 Public health informatics	2	S2	金 Fri	3・4	小山 博史 OYAMA Hiroshi	教授 Prof.
47-48	41418324	公共健康情報学演習 Seminar in Public health informatics	2	A1	金 Fri	3・4	小山 博史 OYAMA Hiroshi	教授 Prof.
49	41418330	Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論	2	S2	月 Mon	4・5	Yoonhee Kim	准教授 Assoc. prof
50-51	41418411	インターンシップ Internship	2	夏季・A1・W			専攻長 Head of Department	
52	41418511	公共健康医学特論 Special Lecture in Public Health	2	S1	月 Mon	4・5	専攻長 Head of Department	
53	41418611	課題研究 Independent Study	6	通年 Full-Year			各指導教員 Supervisor	
54-55	41418326	社会保障政策(政策の理論と展開) Social Security Policy	2	A1・A2	金 Fri	5	鈴木 俊彦 SUZUKI Toshihiko	客員教授 Visiting Prof.

*以下の講義は休講とする

Following courses aren't offered in AY 2024.

- ・「法医学・医事法学演習 Forensic Medicine & Medical Law Exercise」
- ・「日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan」
- ・「Comperative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医療制度論」
- ・「医療経営学演習 Seminar in Healthcare Organization Management」

*「社会保障政策（政策の理論と展開）」：公共政策学教育部との合併科目

SPH2024年度時間割

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W						
曜日	時限	4/5~5/31	6/3~7/29	8/1~9/30	10/02~11/27	11/28~1/31	2/3~3/7						
		8W	8W	9W	8W	8W	4W						
月	1 8:30-10:15	41418320-健康危機管理学(1)		夏季休業				1	月				
	2 10:25-12:10												
	3 13:00-14:45	41418316-法医学・医事法学(2)*3								41418331-Comparative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医療制度論(2)	3		
	4 14:55-16:40	41418511-公共健康医学特論(2)										41418330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)	4
	5 16:50-18:35									41418311-健康医療政策学(2)*4	5		
	6 18:45-20:30										6		
火	1 8:30-10:15	41418223-保健医療人材育成学(2)	夏季休業	夏季休業				1	火				
	2 10:25-12:10									41418224-プライマリヘルスケア学(2)	2		
	3 13:00-14:45	41418120-医療コミュニケーション学(2)								41418115-医学研究のデザイン(2)*1		3	
	4 14:55-16:40										4		
	5 16:50-18:35	41418211-精神保健学 I (2)*2								41418212-精神保健学 II (2)	5		
	6 18:45-20:30										6		
水	1 8:30-10:15	41418118-保健医療経済学(2)	夏季休業	夏季休業				1	水				
	2 10:25-12:10									41418116-臨床疫学(2)	2		
	3 13:00-14:45									41418122-医療コミュニケーション学演習(2)		3	
	4 14:55-16:40										4		
	5 16:50-18:35										5		
	6 18:45-20:30										6		
木	1 8:30-10:15		夏季休業	夏季休業				1	木				
	2 10:25-12:10	41418126-臨床医学概論(1)								41118313-医療情報システム学実習(1)	2		
	3 13:00-14:45	41418113-医学データの統計解析(2)**								41418114-医学統計学演習(2)	3		
	4 14:55-16:40										4		
	5 16:50-18:35	41418218-医療倫理学 I (2)*3								41418219-医療倫理学 II (2)	5		
	6 18:45-20:30										6		
金	1 8:30-10:15		夏季休業	夏季休業				1	金				
	2 10:25-12:10	41418111-疫学研究と実践(2)*1								41418214-健康社会学(2)	41418213-健康教育学(2)*2	2	
	3 13:00-14:45	41418312-医療情報システム学(2)*4								41418323-公共健康情報学(2)	41418324-公共健康情報学演習(2)	41418221-社会と健康 II (2)	3
	4 14:55-16:40											4	
	5 16:50-18:35	41418322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5								41418326-社会保障政策(2)		5	
	6 18:45-20:30											6	

下記特記事項参照

業夏	8月	2週目 (予定)	41418112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2~3週目 (予定)	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

4. 履修モデル

履修モデル「公衆衛生行政・管理」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~5/31	6/3~7/29	8/1~9/30	10/02~11/27	11/28~1/31	2/3~3/7			
		8W	8W	9W	8W	8W	4W			
月	1 8:30-10:15	41418320-健康危機管理学(1)		夏季休業				1 2 3 4 5 6	月	
	2 10:25-12:10									
	3 13:00-14:45	41418316-法医学・医事法学(2)*3			41418331-Comparative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医療制度論(2)					
	4 14:55-16:40	41418511-公共健康医学特論(2)	41418330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論(2)			41418311-健康医療政策学(2)*4				
	5 16:50-18:35									
	6 18:45-20:30									
火	1 8:30-10:15	41418223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41418224-プライマリヘルスケア学(2)			1 2 3 4 5 6	火	
	2 10:25-12:10				41418127-医学研究データマネジメントとCDISC標準(1)					
	3 13:00-14:45	41418120-医療コミュニケーション学(2)	41418115-医学研究のデザイン(2)*1							
	4 14:55-16:40					41418212-精神保健学II(2)				
	5 16:50-18:35	41418211-精神保健学I(2)*2								
	6 18:45-20:30									
水	1 8:30-10:15	41418118-保健医療経済学(2)	41418116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41418222-産業保健の理論と実践(2)*5			1 2 3 4 5 6	水	
	2 10:25-12:10				41418128-がん疫学(1)					
	3 13:00-14:45		41418122-医療コミュニケーション学演習(2)							
	4 14:55-16:40									
	5 16:50-18:35									
	6 18:45-20:30									
木	1 8:30-10:15		41118313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41418220-社会と健康I(2)*3	41418124-医療技術評価学演習(1)		1 2 3 4 5 6	木	
	2 10:25-12:10	41418126-臨床医学概論(1)								
	3 13:00-14:45	41418113-医学データの統計解析(2)**	41418114-医学統計学演習(2)			41418117-臨床疫学・経済学演習(2)				
	4 14:55-16:40									
	5 16:50-18:35	41418218-医療倫理学I(2)*3	41418219-医療倫理学II(2)							
	6 18:45-20:30									
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41418214-健康社会学(2)	41418213-健康教育学(2)*2		1 2 3 4 5 6	金	
	2 10:25-12:10	41418111-疫学研究と実践(2)*1								
	3 13:00-14:45	41418312-医療情報システム学(2)*4	41418323-公共健康情報学(2)		41418324-公共健康情報学演習(2)	41418221-社会と健康II(2)				
	4 14:55-16:40									
	5 16:50-18:35	41418322-Environmental Health 環境健康医学(2)*5			41418326-社会保障政策(2)					
	6 18:45-20:30									

業夏	8月	2週目(予定)	41418112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2~3週目(予定)	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目
*1~5 選択必修科目

履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W				
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7				
		8W	8W	9W	8W	8W	4W				
月	1 8:30 10:15	41418320- 健康危機管理学(1)		夏季休業				1	月		
	2 10:25 12:10										
	3 13:00 14:45	41418316-法医学・医事法学(2)*3								41418331-Comparative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医 療制度論(2)	3
	4 14:55 16:40	41418511- 公共健康医学特論(2)									
	5 16:50 18:35									41418311-健康医療政策学(2)*4	5
	6 18:45 20:30										6
火	1 8:30 10:15	41418223- 保健医療人材育成学 (2)	41418115- 医学研究のデザイン(2)*1	下記特記 事項参照				1	火		
	2 10:25 12:10									41418224- プライマリヘルスケア学 (2)	2
	3 13:00 14:45	41418120- 医療コミュニケーション学(2)								41418127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)	3
	4 14:55 16:40										4
	5 16:50 18:35	41418211-精神保健学 I (2)*2								41418212-精神保健学 II (2)	5
	6 18:45 20:30										6
水	1 8:30 10:15	41418118- 保健医療経済学(2)	41418116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照				1	水		
	2 10:25 12:10									41418222- 産業保健の理論と実践 (2)*5	2
	3 13:00 14:45		41418122- 医療コミュニケーション学演習(2)							41418128-がん疫学(1)	3
	4 14:55 16:40										4
	5 16:50 18:35										5
	6 18:45 20:30										6
木	1 8:30 10:15		41118313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照				1	木		
	2 10:25 12:10	41418126- 臨床医学概論(1)	41418220- 社会と健康 I (2)*3							41418124-医療技術 評価学演習(1)	2
	3 13:00 14:45	41418113-医学データ の統計解析(2)**	41418114-医学統計学演 習(2)							41418117-臨床疫学・経済学演習(2)	3
	4 14:55 16:40										4
	5 16:50 18:35	41418218- 医療倫理学 I (2)*3	41418219- 医療倫理学 II (2)								5
	6 18:45 20:30										6
金	1 8:30 10:15			下記特記 事項参照				1	金		
	2 10:25 12:10	41418111-疫学研究と実践(2)*1	41418214- 健康社会学(2)							41418213- 健康教育学(2)*2	2
	3 13:00 14:45	41418312- 医療情報システム学 (2)*4	41418323- 公共健康情報学(2)							41418221- 社会と健康 II (2)	3
	4 14:55 16:40										4
	5 16:50 18:35	41418322-Environmental Health 環境健康医学 (2)*5	41418326-社会保障政策(2)								5
	6 18:45 20:30										6

業夏	8月	2週目 (予定)	41418112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目
*1～5 選択必修科目

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W					
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7					
		8W	8W	9W	8W	8W	4W					
月	1 8:30 10:15	41418320- 健康危機管理学(1)		夏季休業				1	月			
	2 10:25 12:10											
	3 13:00 14:45	41418316-法医学・医事法学(2)*3								41418330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研 究方法論(2)	41418331-Comparative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医 療制度論(2)	3
	4 14:55 16:40	41418511- 公共健康医学特論(2)										
	5 16:50 18:35									41418311-健康医療政策学(2)*4	5	
	6 18:45 20:30										6	
火	1 8:30 10:15	41418223- 保健医療人材育成学 (2)	41418115- 医学研究のデザイン(2)*1	夏季休業				1	火			
	2 10:25 12:10									41418224- プライマリヘルスケア学 (2)	2	
	3 13:00 14:45	41418120- 医療コミュニケーション学(2)								41418127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)		3
	4 14:55 16:40										4	
	5 16:50 18:35	41418211-精神保健学 I (2)*2									41418212-精神保健学 II (2)	5
	6 18:45 20:30											6
水	1 8:30 10:15	41418118- 保健医療経済学(2)	41418116-臨床疫学(2)	夏季休業				1	水			
	2 10:25 12:10									41418222- 産業保健の理論と実践 (2)*5	2	
	3 13:00 14:45		41418122- 医療コミュニケーション学演習(2)							41418128-がん疫学(1)		3
	4 14:55 16:40										4	
	5 16:50 18:35										5	
	6 18:45 20:30										6	
木	1 8:30 10:15		41118313- 医療情報システム学実習(1)	夏季休業				1	木			
	2 10:25 12:10	41418126- 臨床医学概論(1)								41418220- 社会と健康 I (2)*3	41418124-医療技術 評価学演習(1)	2
	3 13:00 14:45	41418113-医学データ の統計解析(2)**	41418114-医学統計学演 習(2)							41418117-臨床疫学・経済学演習(2)		3
	4 14:55 16:40											4
	5 16:50 18:35	41418218- 医療倫理学 I (2)*3	41418219- 医療倫理学 II (2)									5
	6 18:45 20:30											6
金	1 8:30 10:15			夏季休業				1	金			
	2 10:25 12:10	41418111-疫学研究と実践(2)*1								41418214- 健康社会学(2)	41418213- 健康教育学(2)*2	2
	3 13:00 14:45	41418312- 医療情報システム学 (2)*4	41418323- 公共健康情報学(2)							41418324- 公共健康情報学演習 (2)	41418221- 社会と健康 II (2)	3
	4 14:55 16:40	41418322-Environmental Health 環境健康医学 (2)*5								41418326-社会保障政策(2)		4
	5 16:50 18:35											5
	6 18:45 20:30											6

業夏	8月	2週目 (予定)	41418112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目
*1～5 選択必修科目

履修モデル「医療情報・臨床工学」

()単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W				
曜日	時限	4/5～5/31	6/3～7/29	8/1～9/30	10/02～11/27	11/28～1/31	2/3～3/7				
		8W	8W	9W	8W	8W	4W				
月	1 8:30 10:15	41418320- 健康危機管理学(1)			41418331-Comparative healthcare systems in Asia アジア諸国における比較医 療制度論(2)	41418311-健康医療政策学(2)*4		1	月		
	2 10:25 12:10										
	3 13:00 14:45	41418316-法医学・医事法学(2)*3								3	
	4 14:55 16:40	41418511- 公共健康医学特論(2)								41418330-Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研 究方法論(2)	4
	5 16:50 18:35										5
	6 18:45 20:30										6
火	1 8:30 10:15	41418223- 保健医療人材育成学 (2)	41418115- 医学研究のデザイン(2)*1	下記特記 事項参照	41418224- プライマリヘルスケア学 (2)	41418212-精神保健学II(2)		1	火		
	2 10:25 12:10									2	
	3 13:00 14:45	41418120- 医療コミュニケーション学(2)								3	
	4 14:55 16:40									4	
	5 16:50 18:35	41418211-精神保健学I(2)*2								5	
	6 18:45 20:30									6	
水	1 8:30 10:15	41418118- 保健医療経済学(2)	41418116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41418222- 産業保健の理論と実践 (2)*5	41418128-がん疫学(1)		1	水		
	2 10:25 12:10		2								
	3 13:00 14:45		41418122- 医療コミュニケーション学演習(2)							3	
	4 14:55 16:40									4	
	5 16:50 18:35									5	
	6 18:45 20:30									6	
木	1 8:30 10:15		41118313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41418220- 社会と健康I(2)*3	41418124-医療技術 評価学演習(1)		1	木		
	2 10:25 12:10	41418126- 臨床医学概論(1)	2								
	3 13:00 14:45	41418113-医学データ の統計解析(2)**	41418114-医学統計学演 習(2)							3	
	4 14:55 16:40									4	
	5 16:50 18:35	41418218- 医療倫理学I(2)*3	41418219- 医療倫理学II(2)							5	
	6 18:45 20:30									6	
金	1 8:30 10:15			下記特記 事項参照	41418214- 健康社会学(2)	41418213- 健康教育学(2)*2		1	金		
	2 10:25 12:10	41418111-疫学研究と実践(2)*1								2	
	3 13:00 14:45	41418312- 医療情報システム学 (2)*4	41418323- 公共健康情報学(2)							3	
	4 14:55 16:40									4	
	5 16:50 18:35	41418322-Environmental Health 環境健康医学 (2)*5								5	
	6 18:45 20:30									6	

業夏	8月	2週目 (予定)	41418112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	2～3週目 (予定)	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休			

** 必修科目
*1～5 選択必修科目

科 目 名	疫学研究と実践		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 2		
担 当 教 員	村上 健太郎		
授 業 の 目 的	<p>疫学研究ならびに公衆衛生活動を実際に行いたいと考えている学生にとって必須の「疫学的な考え方」と知識、基本的な技術を提供する講義である。</p> <p>地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。</p> <p>主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考法、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法、その他。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目と2回目は講義のみ。適宜、討論を行う。 ・ 3回目から12回目までは毎回講義後に宿題（小レポート）が課される。ITC-LMSにて提出（方法は講義にて説明）。 ・ 5回目から13回目までは小レポートの発表を課されることがある。 		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 4/05 序論（疫学とは） 2) 4/19 疫学研究の実際 3) 4/26 記述疫学の目的と方法 4) 5/10 生態学的研究の目的と方法 5) 5/15(水) 疫学における「集団」の考え方 6) 5/17 疫学における「測定方法」の考え方（1） 7) 5/24 疫学における「測定方法」の考え方（2） 8) 5/31 横断研究の目的と方法 9) 6/7 コホート研究の目的と方法 10) 6/14 症例対照研究の目的と方法 11) 6/21 介入研究の目的と方法 12) 6/28 レビュー、メタ・アナリシスの目的と方法 13) 7/05 疫学研究の実務・生活への活用 <p>（注意）7/12を予備日とする。</p>		
教 科 書	テーマごとに資料が配布される。講義前日までに ITC-LMS にて配布の予定。あらかじめ一読しておくことが勧められる。		
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席（配点：およそ4割）、小レポート（同：およそ4割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ2割）を合算して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中における質疑応答ならびに小レポートを用いた発表・質疑応答への積極的な参加を重視する。 ・ 「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。（注：本講義を受講しなくても「予防保健の実践と評価」を受講することはできる。） 		

科 目 名	予防保健の実践と評価		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	村上 健太郎		
授 業 の 目 的	<p>公衆衛生活動・保健活動などを実際に行いたい、間接的にでもこれらに関連する職業に就きたいと考えている学生にとって必須の知識と技術、考え方を提供する講義である。</p> <p>地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。『理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するか』という実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回でテーマを設けてその分野の実践者・研究者から講義を聞き、その後、講師と討論を行う。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 8/5 地域にねざした研究と実践について、実例を交えて学ぶ 2) 8/6 公衆衛生調査の行われ方とあり方について、実例を通して学ぶ 3) 8/7 環境衛生の研究と実践について、実例を交えて学ぶ 4) 8/8 予防保健分野における実態把握ならびに活動評価に必要な調査技術について学ぶ 5) 8/9 生活習慣を例として、予防保健の理論と実践ならびにその評価方法について学ぶ <p>原則としてすべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義と外来講師（実践者・研究者）による講義・討論を行う。</p> <p>（注意）講義の順序ならびに内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教員宛または ITC-LMS にて確認されたい。</p>		
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマごとに資料が配布される。講義前日までに ITC-LMS にて配布の予定。あらかじめ一読しておくことが勧められる。 		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・講義毎に異なる。適宜指示する。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義への出席（配点：およそ4割）ならびに講義内での討論の内容（質問と発言）（配点：およそ6割）を総合的に評価して判定する。 		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中の討論における積極的な参加を重視する。 ・「疫学研究と実践」を履修したうえで本講義を受講することを勧める（ただし、必須ではない）。 		

科 目 名	医学データの統計解析		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	松山 裕、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義形式（テーマごとに資料が配布される） ・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること ・ 講義場所は医学部教育研究棟 1 3 F 第 6 セミナー室 ・ 感染状況によっては、オンラインになる場合がある。UTAS ならびに ITC-LMS の該当部分を必ずチェックすること。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 11 日 医学研究における統計学の活用 4 月 18 日 治療効果・曝露効果の指標と 95%信頼区間 4 月 25 日 2 群の比較 5 月 02 日 層別解析・ロジスティック回帰 5 月 09 日 分散分析入門・相関と回帰 5 月 16 日 生存時間解析 5 月 23 日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計 期末試験の日時は、7 月 29 日（月）2 限を予定（変更の可能性もある）		
教 科 書	下記、参考書欄を参照		
参 考 書	初級者向け参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳（総合医学社） ・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳（総合医学社） 中級者以上向け参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳（サイエンティスト社） ・ Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011. ・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社 		
成績評価の方法	期末試験（80%）、毎回の小レポート（10%）、出席（10%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	受講希望者は 1 回目の講義に必ず出席すること。 講義方法は対面とするが、UTAS ならびに ITC-LMS の該当部分を必ずチェックすること。		

科 目 名	医学統計学演習		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	大庭 幸治、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	<p>「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、eStat (https://www.e-stat.go.jp/)にて公開されている公的データを利用して JMP を用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。</p> <p>そのため、授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。PC を持っていない学生は、事前に担当教員まで連絡をすること。</p>		
授 業 の 方 法	<p>対面での演習を想定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行に応じて適宜変更を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JMP の使用についての演習を行う。 ・ 解析手法について簡単なインストラクションの後、実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。 ・ 後半では、実際のデータを JMP を用いて解析し、班別に結果を発表する。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>06/06 JMP 入門</p> <p>06/13 2 群の比較</p> <p>06/20 相関と回帰、分散分析</p> <p>06/27 分割表の解析とロジスティック回帰</p> <p>07/04 生存時間解析</p> <p>07/11 多変量解析、データ解析実習</p> <p>07/18 データ解析実習</p> <p>07/25 データ解析実習 発表会</p>		
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医学データの統計解析」と同様の教科書 ・ 統計ソフト JMP 内、ヘルプドキュメンテーション（日本語版） ・ 心理統計学の基礎 統合的理解のために（有斐閣アルマ） ・ 続・心理統計学の基礎 統合的理解を広げ深める（有斐閣アルマ） ・ 医学研究のための多変量解析（メディカル・サイエンス・インターナショナル） 		
参 考 書	教科書を参照のこと		
成績評価の方法	出席並びに発表(50%)と各講義で出されるレポート(50%)で合・否判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。インストールの方法は、「医学データの統計解析」において配布する JMP のインストールについてを参照のこと。		

科 目 名	医学研究のデザイン		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3, 火 4		
担 当 教 員	松山 裕、萩原 康博、吉田 唯		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・テーマ毎に講義・演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6/04 研究デザインの分類と特徴：観察研究のデザイン総論（松山） 6/11 研究デザインの分類と特徴：臨床試験のデザイン総論（松山） 6/18 臨床試験のデザインとプロトコル作成：CONSORTによる論文チェック（林） 6/25 疫学研究のデザインとプロトコル作成：STROBEによる論文チェック（林） 7/02 データマネージメントと品質管理：研究組織と運営（辻井） 7/09 医薬品の承認審査・先進医療の評価の概要と実際（柴田） 7/16 傾向スコアを用いた研究デザイン：傾向スコアの正しい使い方（松山）		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン・中山書店、2011。		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン・中山書店、2011。		
成績評価の方法	出席（50%）、レポート・演習報告等（50%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修希望者は1回目の講義に必ず出席すること。 講義方法は対面（教育研究棟 13F SPH 講義室）。 感染状況によっては、オンラインになることもある。 UTAS ならびに ITC-LMS の該当部分を必ずチェックすること。		

科 目 名	臨床疫学		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授 業 の 方 法	事前に配布される関連文献を熟読してくる。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6/5、1限) 臨床疫学の基礎知識 1 2) (6/5、2限) 臨床疫学の基礎知識 2 3) (6/12、1限) EBM と診療ガイドライン 4) (6/12、2限) 臨床診断 5) (6/19、1限) 臨床予測モデル 6) (6/19、2限) 観察研究デザイン(岩上将夫) 7) (6/26、1限) 回帰分析の注意点 8) (6/26、2限) 傾向スコア分析(propensity score analysis) 9) (7/3、1限) ランダム化比較試験とリアルワールドデータ研究 10) (7/3、2限) リアルワールドデータ研究の実例 (山名隼人) 11) (7/10、1限) 操作変数法(instrumental variable method) 12) (7/10、2限) 差の差分析、回帰分断デザイン (笹渕裕介) 13) 14) (7/17、1・2限) レポート発表会 ※講義の順番は変更することがある		
教 科 書	康永秀生.できる！臨床研究 最短攻略 50 の鉄則.金原出版 2017		
参 考 書	Fletcher GS. Clinical Epidemiology: The Essentials. Sixth Edition. Lippincott, Williams&Wilkins. 2020		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連・履修上の注意	※本講義の資料は、各講義の前日までに学習管理システム (ITC-LMS) にアップロードされるので、各自で講義前にダウンロードしてください。 ※非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、S1 ターム「臨床医学概論」の履修を推奨します。 ※医学部教育研究棟 13 階の第 6 セミナー室で、対面講義を実施します。		

科 目 名	臨床疫学・経済学演習		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3, 木 4		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	<p>1. 医学英語論文の書き方を学ぶ 在学中から医学英語論文を書こうと真剣に考えている学生を対象とする。</p> <p>2. 研究費申請書の書き方を学ぶ 卒業後に研究費を申請することを真剣に検討している学生を対象とする。</p> <p>各自の臨床または公衆衛生の経験をもとに研究テーマを確立し、研究の背景・目的・方法・期待される結果を記述し、研究経費の見積もり等を作成する、実践的なスキルを身につける。(論文執筆や研究費申請の経験の有無は問わない)</p>		
授 業 の 方 法	原則として、3限は医学英語論文の書き方演習、4限は研究費申請書(文部科学研究費・若手研究または基盤Cのフォーマットに従う)作成の個別指導。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 10/3 3限: 医学論文を書くための準備(1) 4限: 研究費申請書の書き方(1)</p> <p>2) 10/10 3限: 医学論文を書くための準備(2) 4限: 研究費申請書の書き方(2)</p> <p>3) 10/17 3限: Title の書き方 4限: 個別指導</p> <p>4) 10/24 3限: Abstract の書き方 4限: 個別指導 (10/31 は公衆衛生学会のため休み)</p> <p>5) 11/7 3限: Introduction の書き方 4限: 研究計画の口頭説明</p> <p>6) 11/14 3限: Methods, Results の書き方 4限: 個別指導</p> <p>7) 11/21 3限: Discussion の書き方(1) 4限: 個別指導</p> <p>8) 11/28 3限: Discussion の書き方(2) 4限: 個別指導</p> <p>9) 12/12 3限: Discussion の書き方(3) 4限: 個別指導</p> <p>10) 12/19 3・4限: 研究計画の中間発表</p> <p>11) 1/9 3限: 論文の Submission 4限: 個別指導</p> <p>12) 1/16 3限: Reviewer comment の書き方(1) 4限: 個別指導</p> <p>13) 1/23 3限: Reviewer comment の書き方(2) 4限: 研究費申請書の審査</p> <p>※講義・演習の順番は変更となることがある。</p>		
教 科 書	康永秀生. 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略50の鉄則. 金原出版.		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 30%、毎回の課題 30%、最後に提出する研究費申請書 40%により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>履修・聴講ともに、「臨床疫学」講義の受講が必須。</p> <p>履修(3・4限ともに履修し単位取得)希望者は、10名程度まで受け入れ可。</p> <p>S2ターム「臨床疫学」講義の受講者から、本演習の履修希望者を7月中に募集する。</p> <p>履修希望者が10名を超える場合は、「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。</p> <p>3限のみの聴講は可能。(この場合も「臨床疫学」講義の受講は必須。単位取得はできないので注意)。4限の聴講のみは不可。</p>		

科 目 名	保健医療経済学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。		
授 業 の 方 法	講義、ディスカッション、レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1)医療経済学の基礎1 (康永) (4月10日 1限) 2)医療経済学の基礎2 (康永) (4月10日 2限) 3)保険の理論 (康永) (4月17日 1限) 4)医療サービス市場における競争・規制 (康永) (4月17日 2限) 5)供給者誘発需要仮説 (康永) (4月24日 1限) 6)医療制度の国際比較 (康永) (4月24日 1限) 7)医療経済学と医療政策1 (康永) (5月1日 1限) 8)医療費増加の要因 (康永) (5月1日 2限) 9)医療経済学と医療政策2 (康永) (5月8日 1限) 10)行動経済学 (後藤励) (5月8日 2限) 11)医療費適正化 (康永) (5月22日 1限) 12)ヘルスサービスリサーチ (宮脇) (5月22日 2限) 13)医療経済学と医療政策3 (康永) (5月29日 1限) 14)介護と地域包括ケア (康永) (5月29日 2限) ※各講義の順番は変更することがある		
教 科 書	なし		
参 考 書	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	本講義の資料は、各講義の前日までに学習管理システム (ITC-LMS) にアップロードされるので、各自で講義前にダウンロードしてください。 ※医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻(SPH)講義室にて、対面で講義を実施します。		

科 目 名	医療コミュニケーション学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3, 火 4		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	各回1テーマの講義を原則とするが、ワークを行うことがある。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月9日3限 13:00-14:45 医療（ヘルス）コミュニケーション学概論 木内貴弘</p> <p>4月9日4限 14:55-16:40 ヘルスコミュニケーションの研究 発想・方法・実証研究 奥原剛</p> <p>4月16日3限 13:00-14:45 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて①外国人患者とのコミュニケーション 大野直子（順天堂大学）</p> <p>4月16日4限 14:55-16:40 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて②賢い患者・市民を育てる取り組み 山口育子（COML）</p> <p>4月23日3限 13:00-14:45 リスクコミュニケーション&コミュニティエンゲージメント:理論から実践へ 加藤美生（国立感染症研究所）</p> <p>4月23日4限 14:55-16:40 行動変容のためのヘルスコミュニケーション①理論編 奥原剛</p> <p>4月30日3限 13:00-14:45 組織のコミュニケーション コーチング・カウンセリング・メンターリング 榊原圭子（東洋大学）</p> <p>4月30日4限 14:55-16:40 よりよい患者・医療者間コミュニケーションに向けて③実証研究に基づくコミュニケーションの改善 石川ひろの（帝京大学）</p> <p>5月7日3限 13:00-14:45 ソーシャルマーケティングによる価値創造：理論と実践 瓜生原葉子（同志社大学）</p> <p>5月7日4限 14:55-16:40 メディアコミュニケーションを理解する①インターネット 中山和弘（聖路加国際大学）</p> <p>5月14日3限 13:00-14:45 メディアコミュニケーションを理解する②新聞 本田麻由美（読売新聞）</p>		

	<p>5月14日4限 14:55-16:40 行動変容のためのヘルスコミュニケーション②実践編 奥原剛</p> <p>5月21日3限 13:00-14:45 メディアコミュニケーションを理解する③テレビ 藤本洋平 (NHK)</p> <p>5月21日4限 14:55-16:40 まとめ：グループ討論と総合討論 木内貴弘、奥原剛、岡田宏子</p>
教科書	石川ひろの 著. 保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門. 大修館書店. 2020
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・奥原剛 著. 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション. 大修館書店. 2021 ・Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 5th ed. Oxford University Press. 2016 ・Philip Kotler, Nancy R. Lee. Social Marketing: Influencing Behaviors for Good. Saga Pub
成績評価の方法	<p>講義への出席 (40%)、Eラーニング受講 (10%)、レポート (50%) による。</p> <p>※レポート課題とEラーニング受講の詳細は、ITC-LMSの課題欄を確認してください。</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学等と関連する。</p> <p>予習、復習に、教科書、参考書、配布資料、講義で指定されるEラーニングを活用してください。</p> <p>講義で指定されるEラーニングを、レポート提出期限までに受講完了してください。</p>

科 目 名	医療コミュニケーション学演習		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 3, 水 4		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に uptake、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。 ・演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月5日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（1）患者・家族を支援する説明文書を作る 高山智子（静岡社会健康医学大学院大学）注意：ノート PC 持参のこと</p> <p>6月12日(水) 13:00-16:40 メディア報道のあり方を考える メディアドクター演習 渡邊清高（帝京大学）</p> <p>6月19日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（2）市民の行動変容を促す保健医療文書を作る 奥原剛 注意：ノート PC 持参のこと</p> <p>6月26日(水) 13:00-16:40 行動変容を支援するスキル コーチング演習 半谷知也（LBJ）</p> <p>7月3日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI（Myers-Briggs Type Indicator）演習（1） 園田由紀（日本MBTI協会）</p> <p>7月10日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI 演習（2） 園田由紀（日本MBTI協会）</p> <p>7月17日(水) 13:00-16:40 自分を知る・相手を知る MBTI 演習（3） 園田由紀（日本MBTI協会）</p> <p>7月24日(水) 13:00-16:40 ヘルスライティング（3）発表会・総合討論 木内貴弘、高山智子、奥原剛、岡田宏子 注意：ノート PC 持参のこと</p>		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・石川ひろの 著. 保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門. 大修館書店. 2020 ・奥原剛 著. 実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション. 大修館書店. 2021 ・ロジャー・R.ピアマン, サラ・C.アルブリット 著. 園田由紀 訳. MBTI へのいざない—ユングの「タイプ論」の日常への応用. JPP. 2012. ・ヘンリー・キムジーハウス他著. コーチング・バイブル：人の潜在力を引き出す協働的コミュニケーション(第4版). 東洋経済新報社. 2020 		

成績評価の方法	出席（60%）、演習内でのプレゼンテーション・作成した資料・レポート（40%）によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。特にMBTI演習は3回とも出席できることを前提とする。
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療コミュニケーション学」講義を受講していることが望ましい。 ・MBTI演習については履修登録なしの聴講を認めない。 ・予習、復習に教科書、参考書、配布資料を活用してください。

科目名	医療技術評価学演習		
ターム	A 2	単位数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
担当教員	康永 秀生		
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療技術評価(Health Technology Assessment, HTA)の基本を身に着ける。 ・ 費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。 		
授業の方法	系統講義と演習。一部、Excel を用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> 1. (11月28日) 医療技術評価学の基礎 2. (12月5日) QOL 評価 (五十嵐中) 3. (12月12日) 費用効果分析・その1 4. (12月19日) 費用効果分析・その2 5. (1月9日) 費用効果分析・その3 6. (1月16日) 医薬品及び医療機器の経済評価 (田倉智之) 7. (1月23日) 費用効果分析・その4 <p>※講義の順番は変更することがある</p>		
教科書	なし		
参考書	Drummond MF, et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes Fourth Edition. Oxford Medical Publications 2015		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>実施形態：対面</p> <p>講義場所：医学部教育研究棟 13 階 SPH 講義室</p>		

科 目 名	臨床医学概論		
タ ー ム	S 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	非医師の学生向け。 臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。 医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。		
授 業 の 方 法	系統講義を通じて、解剖・生理、診断・治療および疾患の疫学について要点を解説する。 また、医学用語（日本語・英語）を解説し、基礎的な医学論文の読解を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. 脳神経 (4/11) 2. 循環器・呼吸器 (4/18) 3. 消化器 (4/25) 4. 腎・泌尿器、生殖器 (5/9) 5. 感覚器、運動器(5/16) 6. 感染症、中毒、血液(5/23) 7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー(5/30) ※講義の順番は変更することあり		
教 科 書	なし (毎回、テーマ毎に資料が配布される)		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	本講義の資料は、各講義の前日までに学習管理システム (ITC-LMS) にアップロードされるので、各自で講義前にダウンロードしてください。 ※医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻(SPH)講義室にて、対面で講義を実施します。		

科 目 名	医学研究データマネジメントと CDISC 標準		
タ ー ム	A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	火 3		
担 当 教 員	木内 貴弘、奥原 剛		
授 業 の 目 的	CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)標準は、治験電子申請用の臨床研究データと付随するメタデータの国際標準として策定され、治験に関しては米国と日本では規制当局により利用が強制されている。また臨床・疫学研究データの電子的収集・データマネージメント・統計解析・アーカイブ化等の全ての場面で活用可能な形に拡張され、将来はアカデミアへの普及も確実視されている。日本では、国際標準の意義、役割、活用についての医学界の認識が不十分である。本講義では、CDISC 標準活用によるデータ、ソフト、研究業務の相互運用性の重要性を学ぶとともに、医学と情報学の学際的分野である臨床・疫学研究データマネージメントの実際に触れることを目的とする。		
授 業 の 方 法	スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10月8日(火) 13:00-14:45 I. CDISC 標準概論 CDISC 標準とは 木内貴弘・千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 10月15日(火) 13:00-14:45 II. 症例報告書の標準化- CDASH / データ形式の標準化 - SDTM Clinical Data Acquisition Standards Harmonization / Study Data Tabulation Model 千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 10月22日(火) 13:00-14:45 III. 医学研究データマネージメント概論 臨床・疫学研究データマネージメントとは 宮路天平 (東京大学 先端科学技術研究センター) 10月29日(火) 13:00-14:45 IV. 解析データセットの標準化 - AdaM Analysis Data Model 山口拓洋 (東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野) 11月5日(火) 13:00-14:45 V. データとメタデータ - Define.xml CDISC Define.xml 千葉吉輝 (Chiba Planning Office) 11月12日(火) 13:00-14:45 VI. データ形式の標準化の実例 - SDTM 齋藤俊樹 (国立病院機構本部) 11月19日(火) 13:00-14:45 VII. CDISC 標準による治験の電子申請 日本における新薬承認申請の現状と展望 安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構)		
教 科 書	教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ (http://www.cdisc.org/) を必要に応じ、参照すること。		
参 考 書	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席(50%)及び課題レポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学と関係を有し、共に受講が望ましい。製薬会社の治験、医師主導の治験では CDISC 標準は PMDA からその利用が強制されていること、将来はアカデミックな領域でも症例報告書・調査票作成、データマネージメント、統計解析等を CDISC 標準にもとづいて実施するようになることが確実であることから、将来、生物統計、臨床試験、疫学、医療情報システムの研究・実務に従事する予定の学生には履修を強く推奨する。予習、復習に配布資料を活用してください。		

科 目 名	がん疫学		
タ ー ム	A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	水 3		
担 当 教 員	井上 真奈美、橋本 英樹		
授 業 の 目 的	<p>「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、近年注目されているゲノム疫学手法、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やその普及実装のための研究、がん検診の考え方、について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。最終回には、課題として各自が選定したがん疫学関連トピックについてまとめたものを短時間で発表する。</p>		
授 業 の 方 法	講義、課題発表		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>1)講義：がん疫学の概要、記述疫学（地理的分布、推移、がん統計）（井上 10/2、3 限） 2)講 義：がんの分析疫学研究によるエビデンス創出(井上 10/9、3 限) 3)講義：施策に向けたがんの要因評価（リスク評価、系統的レビューとメタアナリシス、統合解析、要因負荷研究（井上 10/16、3 限） 4)講義：がん疫学研究におけるゲノム疫学（後藤 10/23、3 限） 5)講義：がん予防の普及と実装のための研究（島津 11/6、3 限） 6)講義：がん検診、がん対策につなげた疫学事例（井上 11/13、3 限） 7)講義： 課題発表（井上 11/20、3 限）</p>		
教 科 書	指定なし。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Adami HO et al (eds): Textbook of Cancer Epidemiology, 3rd Edition. Oxford University Press. ・ 木原雅子他訳, 健康行動学:その理論、研究、実践の最新動向. メディカル・サイエンス・インターナショナル (第 16 章) ・ Chambers DA, et al. eds., Advancing the Science of Implementation across th 		
成績評価の方法	講義出席（60％）、課題発表と発表資料（要提出）（40％）		
他の授業との関連・履修上の注意	疫学の基礎が理解できていること。		

科目名	精神保健学 I		
ターム	S 1	単位数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
担当教員	西 大輔		
授業の目的	精神保健の疫学や方法論を踏まえた上で、精神保健に関する課題の対策を科学的根拠に基づいて立案するための知識・技術を習得することを目的とする。具体的には、精神保健の疫学や方法論を体系的に理解し説明できること、精神保健の第一次・第二次・第三次予防の科学的根拠の現状について説明できること、グループのメンバーとの協働およびリーダーシップのあり方を学びつつ課題に即した精神保健対策を立案できることを到達目標とする。		
授業の方法	各回1つのテーマについて担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表1および2の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/9 オリエンテーション・総論（西） 4/16 精神疾患の疫学（西） 4/23 精神保健サービスの利用（西） 4/30 精神保健対策の社会実装（西） 5/14 ト라우マと災害精神保健（西、宮本） 5/21 認知行動療法に基づいたアプローチ（今村、西） 5/28 生活習慣に基づいたアプローチ（西） 6/4 課題発表1 科学的根拠に基づく精神保健対策（学生による発表） 6/11 自殺予防対策はどう進めるか（本橋豊） 6/18 認知症ケアの質向上システムを実装する（中西三春） 6/25 休講 7/2 薬物対策に何が必要か（松本俊彦） 7/9 発表準備（学生による自習） 7/16 課題発表2 科学的根拠に基づく精神保健対策を立案する（学生による発表）		
教科書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参考書	特になし		
成績評価の方法	出席（20%）、毎回の事前課題の提出（20%）、課題発表2（30%）、個人レポート（30%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	指定した論文を毎回の講義の前に読みA4 1枚のレポートにまとめて提出すること。最終回のみ授業時間が 16:50-19:30 となるので注意すること。		

科目名	精神保健学Ⅱ		
ターム	A 1	単位数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
担当教員	西 大輔		
授業の目的	精神保健の中でも重要なテーマであるトラウマティックストレス、周産期メンタルヘルス、職場のメンタルヘルスについて、公衆衛生の専門家として必要とされる知識・技術を講義および討論によって習得することを目的とする。パブリックヘルスマインドをもって、トラウマインフォームドケアや、周産期精神保健および産業精神保健の現場における具体的な対策を提案・実践・推進する能力を養成する。		
授業の方法	担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。課題発表では、学生が個人でテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/ 8 トラウマティックストレス 1 総論 (西) 10/15 トラウマティックストレス 2 トラウマインフォームドケア (西) 10/22 トラウマティックストレス 3 レジリエンスと心的外傷後成長 (西) 10/29 周産期メンタルヘルス 1 総論 (西) 11/ 5 周産期メンタルヘルス 2 働く母親・パートナーのメンタルヘルス (佐々木・帯包) 11/12 周産期メンタルヘルス 3 ボンディング障害と公衆衛生的支援 (松長) 11/19 職場のメンタルヘルス総論 (今村) 11/26 ケース対応 (今村) 12/ 3 職場復帰支援 (佐々木) 12/10 職業性ストレスの理論と測定 (渡辺) 12/17 職場のメンタルヘルス一次予防 (関屋) 12/24 ワーク・エンゲイジメント (櫻谷) 1/ 7 課題発表		
教科書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参考書	特になし		
成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%) により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	精神保健疫学の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科 目 名	健康教育学		
タ ー ム	A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1, 金 2		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。 This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention, by applying them to case scenarios. Then, invited lecturers will provide "real world practice" examples for health promotion, with emphasis on marketing, empowerment approach, media message design, and community building. Each frame of theories will be critically discussed for their strength and weakness to help integration of existing frames to facilitate effective health promotion in the community/workplaces.		
授 業 の 方 法	事前に参考資料を I TC-LMS で配布するので、目通しのこと。特に 12 月 13 日はケースメソッド利用するので、事前にシナリオを読み込み、予習が必須。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/29 1) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science (橋本) 2) 2 限 Macro level theories of behavioral science applied (橋本) 12/6 3) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本) 4) 2 限 Macro level theories of community organization applied (橋本) 12/13 5) 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 6) 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 12/20 7) 1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 8) 2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/27 9) 1 限 Marketing in public health (橋本) 10) 2 限 Social marketing through social network intervention (鎌田) 1/17 11) 1 限 Public intervention for community health (馬場) 12) 2 限 Public message design for health promotion I (林) 1/19 13) 1 限 Health Literacy revisited (橋本) 14) 2 限 Decision making and behavior (橋本)		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed through ITC-LMS beforehand, a week ahead., Students are strongly encouraged to read materials beforehand to effectively join in-class discussion.		
参 考 書	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education; Theory, Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008;他、適宜配布		
成績評価の方法	Class attendance and in-class discussion/questions are counted as in-class contribution that shares 60% of score evaluation, the rest of 40% will be evaluated based on one term paper (short). 出席ならびに講義中発言/ディスカッション参加(60%)・課題およびレポート(40%)		
他の授業との関連・履修上の注意	積極的発言 (質問・コメント)・参加を高く評価する。		

科 目 名	健康社会学		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1, 金 2		
担 当 教 員	橋本 英樹、高木 大資		
授 業 の 目 的	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。社会疫学や健康の社会的決定要因などを社会・経済学理論と整合的に理解することを助ける。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame, support to theoretically understand the basis of social epidemiology, or the concept such as social determinants of health. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health, health impacts of built environment and social environment, medicalization and clinical gaze, and sociology of body/embodiment.</p>		
授 業 の 方 法	<p>lecture and in-class discussion</p> <p>Strongly encourage to read materials beforehand to prepare for in-class discussion</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>10/4 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本) 2) 2 限 Social stratification and socioeconomic status (橋本)</p> <p>10/11 3) 1 限 Social stratification and health (橋本) 4) 2 限 Social relationship and health (杉澤)</p> <p>10/18 5) 1 限 Sociology of community applied to health (高木) 6) 2 限 Social network analysis (高木)</p> <p>10/25 7) 1 限 Medicine as a social control institution (橋本) 8) 2 限 Chronic illness and stigma (加藤)</p> <p>11/1 9) 1 限 Lay epidemiology and preventive paradox (橋本) 10) 2 限 Open discussion (橋本)</p> <p>11/8 11) 1 限 World of medicine; archeological perspective (橋本) 12) 2 限 World of chronically ill; phenomenological view (橋本)</p> <p>11/15 13) 1 限 Body sociology and embodiment (橋本) 14) 2 限 open discussion</p>		
教 科 書	<p>handouts and reading materials will be distributed beforehand, a week ahead. reading materials and handouts are distributed through LTC-IMS system a week ahead. Participating students are advised to read the materials beforehand to better join in-class discussion.</p>		
参 考 書	<p>Lupton D. Medicine as culture; illness, disease, and the body. 2nd eds. SAGE, 2003 他、適宜配布</p>		
成績評価の方法	<p>class attendance and in-class discussion/questions count 40% of score as in-class contribution. Report share 60% of score evaluation. 出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)</p>		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>In-class discussion/questions will be counted as contribution for score.</p> <p>The class can be provided in English and Japanese, depending on the students's linguistic needs.</p>		

科 目 名	医療倫理学 I		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 5, 木 6		
担 当 教 員	瀧本 禎之、森 克美、宇田川 誠、中澤 栄輔		
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学ぶ。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1 (2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念 (3) IC の法理 / 終末期医療 (4) ケアの倫理 / 生殖補助医療 (5) 臨床における倫理的検討法 (6) 守秘義務 / 研究倫理 (7) 模擬倫理委員会		
教 科 書	資料を配布する		
参 考 書	・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』〔改訂版〕勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Dunn, M., Hope, T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『医療倫理超入門』岩波書店		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート（70%）により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	「医療倫理学 II」受講の基礎となる内容である。		

科 目 名	医療倫理学Ⅱ		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 5, 木 6		
担 当 教 員	瀧本 禎之、森 克美、宇田川 誠、中澤 栄輔		
授 業 の 目 的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの 2 つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 公衆衛生倫理入門 (2) 公衆衛生と政治哲学 (3) 親子間の世代間倫理 (4) 健康増進とナッジ／臨床倫理コンサルテーション I (5) 医療資源配分／臨床倫理コンサルテーション II (6) ジェンダーと生命倫理／臨床倫理コンサルテーション III (7) 研究者の倫理と不正／臨床倫理コンサルテーション IV		
教 科 書	資料を配布する。		
参 考 書	・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』〔改訂版〕勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al.著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院 ・ Dunn, M., Hope, T.著（児玉聡・赤林朗訳）『医療倫理超入門』岩波書店		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート点数（70%）により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療倫理学Ⅰの内容を前提とする。		

科目名	社会と健康 I		
ターム	A 1	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 1, 木 2		
担当教員	橋本 英樹、鎌田 真光		
授業の目的	<p>本講義は社会的包摂を目指した public health の実践のために必要な基礎理論と現状に関する知見を共有することで、より演習・実践的な議論を予定している A 2 タームの社会と健康 II に参加するために必要な準備をしてもらうことを目的としている。健康や生活機会に格差があることはすでに社会的事実となっている。これを克服するために社会的包摂の重要性や健康の社会的決定要因に対する政策的取り組みなどの必要性も認識されている。にも関わらずそれが現実に展開が見られないのはなぜか、それを克服するにはなにが必要かを考察してもらう。</p>		
授業の方法	<p>講義とディスカッション 対面を原則とする。体調不良等の都合により教室での出席ができない場合に限り、オンラインでの参加を認める。その際は授業前に鎌田 (kamada@m.u-tokyo.ac.jp) に連絡した上で zoom に入室すること。</p> <p>なお、外部講師担当回などで zoom のみでの開講に変更して実施する場合は、事前に ITC-LMS で通知する。zoom URL は ITC-LMS を参照。</p> <p>事前配布資料は ICT-LMS を通じて事前配布。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>10月3日 1) Social determinants of health; theory of epidemiology (橋本) 2) The role of marketing in identifying and understanding target population (鎌田)</p> <p>10月10日 3) Social psychology of social inclusion and exclusion (高木) 4) Open discussion for final presentation</p> <p>10月17日 5) Ageism and the life of old people (guest speaker, 原田謙) 6) Social welfare and public health (guest speaker, 西岡大輔)</p> <p>10月24日 7) Children in the community (guest speaker, 可知悠子) 8) Evidence-based policy making in government (可知)</p> <p>10月31日 Preparation for group presentations [Online] ※日本公衆衛生学会</p> <p>11月7日 9) Health care disparities for non-Japanese residents in Japan (guest speaker, 沢田貴志) 10) Group discussion for final presentations</p> <p>11月14日 11-12) Students presentation</p>		
教科書	社会と健康 (東大出版会)		
参考書	随時関連参考図書・文献を配布		
成績評価の方法	出席 40%、インクラスディスカッション (質問・意見) 参加 20%、レポート課題提出 40%		
他の授業との関連・履修上の注意	事前配布資料は通読してくること。またクラス内でのディスカッション・質問など積極的に参加を推奨する。		

科目名	社会と健康 II		
ターム	A 2	単位数	2
曜日・授業時間帯	金 3, 金 4		
担当教員	橋本 英樹、鎌田 真光		
授業の目的	本講義・演習は社会と健康 I で確認した社会的包摂とパブリックヘルスに関わる概念・現状課題の認識を踏まえ、具体的にパブリックヘルス活動を起こすにはなにが必要となるかをディスカッション形式で深めていくことを目指す。		
授業の方法	<p>毎回講義・講演形式で実践事例などを踏まえた話題提供に続き、small group work による work shop・discussion・presentation を積み上げる。</p> <p>対面開講を前提とする。</p> <p>体調不良等の都合により教室での出席ができない場合に限り、オンラインでの参加を認める。その際は授業前に鎌田 (kamada@m.u-tokyo.ac.jp) に連絡した上で zoom に入室すること。Zoom URL は ITC-LMS より確認すること。</p> <p>なお、外部講師担当などで zoom のみでの開講に変更して実施す</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>11/29 1) イントロ、グループ分け、change agent の概念と public health politics (橋本・鎌田)</p> <p>2) 地域診断 (熊本の事例をベースに) と行政との連携 (高木・鎌田)</p> <p>12/6 3) Entrepreneurship and public health; 起業を通じた変革(guest speaker, 橋本直也)</p> <p>4) Entrepreneurship and public health; 演習 (橋本・鎌田)</p> <p>12/13 5) Lobbying and public health; 保健医療政策をめぐる lobbying (guest speaker, 小野崎耕平)</p> <p>6) Open discussion for final presentation; 演習 (橋本・鎌田)</p> <p>12/20 7) Advocacy and public health; 学会によるアドボカシー活動の課題 (橋本)</p> <p>8) Advocacy and public health; 演習 with Shilton model (橋本・鎌田)</p> <p>12/27 9) Public-private partnership, implementation, and public health; 企業との協働・社会実装 (鎌田)</p> <p>10) Group discussion for final presentation; 演習</p> <p>2025/1/10 課題研究発表会のため休講</p> <p>2025/1/17 入試のため休講</p> <p>この間、各グループごとに final presentation に向けて準備を併行</p> <p>2025/1/24 11-12) Student presentation and mutual evaluation (橋本・鎌田)</p>		
教科書	Naidoo and Willis; developing practice for public health and health promotion, 3rd eds. Elsevier		
参考書	その他事前に ITC-LMS を通じて適宜配布		
成績評価の方法	出席 40% small group discussion/ inclass discussion(講義時間中の質問含む) 20% student presentation 20% final report 20%		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>演習的要素を多く含むので、積極的な議論への参加が求められる。</p> <p>※A1 ターム「社会と健康 I」が履修済みであることを必須とする。</p>		

科 目 名	産業保健の理論と実践		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1, 水 2		
担 当 教 員	大久保 靖司、橋本 英樹		
授 業 の 目 的	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を習得することを目的とする。特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第 1 回の産業保健関連法制度・産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。		
授 業 の 方 法	担当教員および外部講師によるその時点におけるトピックスに関する講義 事例検討等による実践的学習 Project Based Learning による演習		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/2 第 1 回 産業保健関連法制度・産業保健総論 (大久保靖司) 第 2 回 産業保健の動向と国際的広がり (小木和孝 労働科学研究所) 10/9 第 3 回 産業保健と雇用 (矢野栄二 帝京大学) 第 4 回 産業保健と健康リスク管理 (立道昌幸 東海大学) 10/16 第 5 回 産業保健の事例分析 I 計画と評価 (大久保靖司) 第 6 回 演習：産業保健と倫理 (杉森裕樹 大東文化大学) 10/23 第 7 回 産業保健のマネジメント (森晃爾 産業医科大学) 第 8 回 産業保健活動における感染症対策 (柳元伸太郎 東京大学) 10/30 公衆衛生学会期間中につき休講 11/6 第 9 回 産業保健の事例分析 II (大久保靖司) 第 1 0 回 産業保健の事例分析 III 実例検討 (大久保靖司) 11/13 第 1 1 回 演習：参加型職場環境改善 I (吉川徹 労働安全衛生総合研究所) 第 1 2 回 演習：参加型職場環境改善 II (吉川徹 労働安全衛生総合研究所) 11/20 第 1 3 回 演習：課題発表 I (大久保靖司、橋本英樹) 第 1 4 回 演習：課題発表 II (大久保靖司、橋本英樹)		
教 科 書	指定しない。		
参 考 書	指定しない		
成績評価の方法	出席(40%)、課題発表及びレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	2024 年度はすべて対面で実施。		

科 目 名	保健医療人材育成学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 1, 火 2		
担 当 教 員	大西 弘高		
授 業 の 目 的	保健医療分野における人材育成とは、地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発によって、改善するプロセスである。この科目では、学習や教育に関する理論、カリキュラム開発、プログラム評価、インストラクショナル・デザインの考えを理解しつつ、自らコースや授業を組み立て、評価できるような能力を培うことを目的とする。		
授 業 の 方 法	毎回アクティブラーニングを含めた授業を展開する。授業方法は、通常のレクチャーと質疑応答に加え、小グループでのディスカッション等もして考えを深めていただく。 プロジェクト発表は発表1、発表2共に、①学生が他の学生の前でプレゼンテーションしそれを他の学生が評価する、②プロジェクト発表について自身で振り返った後にレポートを提出する、の二つの形で評価する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月9日 保健医療人材育成とは、ワークショップとワールドカフェ 4月16日 講義技法、インストラクショナル・デザイン 4月23日 プロジェクト発表1（講義技法の演習） 4月30日 カリキュラム開発：6ステップアプローチを用いて 5月7日 臨床教育の改善（技法・管理）、メンタリングとプリセプティング 5月14日 学習者評価：代表的手法、信頼性と妥当性、研究との関わり 5月21日 プロジェクト発表2（経験してきた教育の改善案） 5月30日 レポート提出締切		
教 科 書	特になし		
参 考 書	Kern ら「医学教育プログラム開発」、Harden ら「医学教育を学び始める人のために」、は参考になる。		
成績評価の方法	出席（20%）、プロジェクト発表（40%）、振り返りレポート（40%）		
他の授業との関連・履修上の注意	参加希望の方は、メールで oonishihhh@gmail.com までご連絡いただくとありがたいです。		

科 目 名	プライマリヘルスケア学		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 1, 火 2		
担 当 教 員	大西 弘高		
授 業 の 目 的	プライマリヘルスケアおよびその医療的側面であるプライマリケアを取り上げ、公平性、住民中心、地域リソースとの協働、予防活動重視といった基盤的保健・医療サービス、社会保障制度について学ぶ。		
授 業 の 方 法	毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、課題発表など。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10月 1日 プライマリヘルスケアとは：定義、医療と保健、各国の違い 10月 8日 日本の健康保険・介護保険と地域包括ケアシステム 10月 15日 地域保健活動とかかりつけ医制度（仮） 10月 22日 健康格差と社会的包摂：経済、文化、職業との関係 10月 29日 プライマリヘルスケアに向けた人材育成のシステム 11月 5日 当人中心性とジェネラリズム 11月 12日 プロジェクト発表（プライマリヘルスケア改善に対する自分なりのアクション） 11月 19日 レポート提出締切		
教 科 書	特になし		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席（20%）、課題発表（40%）、振り返りレポート（40%）		
他の授業との関連・履修上の注意	履修予定の方は事前に oonishihhh@gmail.com にご連絡いただくと幸いです。		

科 目 名	健康医療政策学		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 5		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗、力武 諒子		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを外部講師の講義をもとに学習するとともに、実際の事例をとおして理解を深める。		
授 業 の 方 法	講義、ゲストスピーカーによる報告、質疑応答・討論などによる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>日程：(月曜 5 限 16:50-18:35、最終日のみ学生によるプレゼンテーションのため 4・5 限) トピック：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康医療政策学序論・我が国の健康医療提供体制の特徴 (東) 2. 医療安全を巡る政策 (新星法律事務所 児玉安司) 3. 医療の質の評価とは (東) 4. 医療政策の評価 (東) 5. 医療の経済評価の制度化 (国立保健医療科学院 福田 敬) 6. 医療と介護のヘルスサービス (筑波大学 田宮菜奈子) 7. 交通外傷と政策 (稲田) 8. 診療報酬の決定過程と課題 (厚生労働省 林修一郎) 9. 医療政策決定の過程とメディアの役割 (日本経済新聞 前村 聡) 10. Special topic (TBA) 11. Special topic (TBA) 		
教 科 書	なし		
参 考 書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
成績評価の方法	出席 (50%)、最終プレゼンテーション (50%) に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	聴講者、他学部聴講者については初回授業でその旨を責任教員に伝えること。		

科 目 名	医療情報システム学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3, 金 4		
担 当 教 員	大江 和彦		
授 業 の 目 的	<p>現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトなどの医療情報データベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性、暗号化を含むセキュリティー技術についても理解する。さらに人工知能技術 (AI) とりわけ機械学習と深層学習についてその基本的な手法と医療データへの適用に関する展望と課題を学ぶ。</p>		
授 業 の 方 法	<p>医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマを順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義し、議論する。</p> <p>大江教授の担当する講義の資料は以下から前日または当日にダウンロードしてください。他の教員の資料サイトは個別に指示します。</p> <p>https://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/?page_id=867</p> <p>パスワードは UTAS にログイン後、Web 版のシラバスで確認してください。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>4 月 19 日 (初回) に全体の授業計画を説明する。全体は 12 コマからなる各回のテーマを入れ替えることがあり、下記のテーマ順序はおおよその例示である。調整中のため各回内容の入れ替えがありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4 月 19 日 3・4 限 医療 IT 化・DX の動向と概要・医療情報の標準化 (大江教授) 2) 4 月 26 日 3 限 データベース技術とデータの二次利用 (大江教授) 4 限 医療における高度情報処理—AI (河添特任准教授) 3) 5 月 10 日 3 限 医療における高度情報処理—意味処理 (今井准教授) 4 限 インターネット技術とセキュリティー管理 (井田講師) 4) 5 月 17 日 3 限 個人情報保護と匿名化、電子署名と暗号化 (大江教授) 4 限 医療情報の安全管理ガイドライン (横田講師) 5) 5 月 24 日 3・4 限 モバイル IT 医療とそのインパクト (脇准教授) 6) 5 月 31 日 3・4 限 地域医療ネットワーク/試験 		
教 科 書	以下の参考書を参照のこと。講義で必ず使う教科書はない。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> ・医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社) ・医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社) ・厚生労働省健康・医療・介護情報利活用検討会の各資料 <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/indexshingiother_217487.html</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_210261.html</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> HL7 FHIR: 新しい医療情報標準 (丸善出版)
成績評価の方法	出席率 30%、試験点数 70%の比重で総合的に判定する。
他の授業との関連・履修上の注意	<p>初回は上記の授業計画を参照のこと。</p> <p>保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。</p> <p>公共健康情報学：健康をとりまく種々の公共情動的側面を知るうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。</p> <p>臨床疫学：医療情報システムから収集される大規模データの解析の実例や手法を学ぶ上で関連が深い。</p>

科 目 名	医療情報システム学実習		
タ ー ム	S 2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 1, 木 2		
担 当 教 員	大江 和彦		
授 業 の 目 的	医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS (マックドクターズ) やリレーショナル・データベースを使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を通して、医療データベースの考え方、電子カルテシステムとのデータ連携の手法、医療情報の標準化、クラウド上と医療機関上のネットワークの違い、データベース変換など医療情報システムを臨床や研究で活用していく基本的な技法と実践的知識を身につける。また、ChatGPT などの AI 技術を用いた医療活用についても触れる。		
授 業 の 方 法	各自の WiFi 接続可能なノートパソコンを持参して、教員の指導により操作して実習する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>初回年 6 月 6 日 8:30 医療情報システム技術の基本</p> <p>2 回目 (6 月 13 日) から、多目的臨床症例登録システム MCDRS を使って My 症例データベースを作ることによって種々の医療情報技術や標準化技術を習得する。</p> <p>1) 対象疾患の決定と登録すべき項目の決定</p> <p>2) 登録項目シートの作成</p> <p>3) Web 版多施設症例登録システムを自分でインターネット上に稼働させる。</p> <p>4) 試験的な患者登録を行う。相互症例登録実験</p> <p>後半は SQL データベース操作入門およびデータ加工入門</p> <p>およびデータの暗号化、生成系 AI に触れてその特徴を体験する。</p> <p>各回は 8 : 3 0 - 1 2 : 1 0</p> <p>6 月 8 日、13 日、20 日、27 日</p> <p>7 月 4 日、18 日、25 日 の 7 回を予定している。</p> <p>7 月 11 日は休講の予定 (6 月に入り通知する)。</p>		
教 科 書	とくになし		
参 考 書	多目的臨床症例登録システム MCDRS のホームページ資料(Http://mcdrs.jp) など。 実習資料は https://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/ に前日までに用意される。		
成績評価の方法	出席状況 (60%)、出来上がりデータベースや発表状況等 (40%)を総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>医療情報システム学講義を受講しているほうが実習を理解しやすい。</p> <p>★ 履修予定者は、自分のノート PC で Web ブラウザをつかって講義室で実習します。Web ブラウザは、Google Chrome、FireFox, MS Edge のいずれかの最新版を準備してください。</p> <p>Microsoft Excel かそれに準じた表計算ソフトウェア (Googel SpreadSheet など) をつかえるようにしてください。</p> <p>WiFi 接続可能であること (UTokyoWifi または各自 Wifi ルータなど)</p> <p>自分でその PC にソフトウェアをインストールできる管理権限パスワードを知っている</p>		

こと。

★各人に実習サーバ用アカウントを「事前に」作成しますので、必ず以下の登録を6月4日24時までに行ってください。

1) SPH 所属者であるなしに関わらず、実習受講し履修単位の登録を希望する人は6月3日24時までには必ずUTAS上で履修登録してください。

2) 実習を受講したいが単位登録は希望しない人は、必ず所属、学籍番号、所属、氏名フルネーム、単位取得せずに受講を希望する理由を簡単に書いて6月4日24時までにはメール送信ください。事前連絡も履修登録もない人は受講できません。

ohe-office@adm.h.u-tokyo.ac.jp

科目名	法医学・医事法学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 3		
担 当 教 員	榎野 陽介		
授 業 の 目 的	法医学とは法が適正に執行されるべく医学的な助言を行うための学問である。すなわち、国民の安全や権利を守るための医学といえる。法医学は死因究明のほか、虐待を受けた小児等の保護も業務として実施しているが、本講義ではそうした法医学の目的や業務を理解することを目的としている。		
授 業 の 方 法	座学による講義のほか、適宜解剖などの見学を行う予定である。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	①法医学総論 ②日本の死因究明制度 ③世界の死因究明制度 ④臨床法医学 ⑤虐待と乳幼児死亡 ⑥法医画像診断学 ⑦法中毒 1 ⑧法中毒 2 ⑨法歯科学 ⑩法遺伝学 ⑪災害における法医学 ⑫法医学と疫学研究 ⑬診療関連死 なお一部変更する可能性がある。		
教 科 書	NEW エssenシャル 法医学 第5版 医歯薬出版株式会社		
参 考 書	死体は今日も泣いている 光文社新書 岩瀬博太郎		
成績評価の方法	レポートを課す		
他の授業との関連・履修上の注意	死因究明関連の講義に当たっては医学写真を多用することから、気分の悪くなりそうな方は履修を避けるべきである。		

科 目 名	健康危機管理学		
タ ー ム	S 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	月 1, 月 2		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗		
授 業 の 目 的	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の対応に関して、公衆衛生の専門家として知っておくべき事柄や、リスクコミュニケーション、等について学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。		
授 業 の 方 法	各分野の専門家による講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>(学外講師の都合により日程変更の可能性があります。事前に UTAS、UTokyo LMS あるいは授業時に連絡します。)</p> <p>講師：(敬称略)</p> <p>東 尚弘 東京大学医学系研究科 健康医療政策学分野 富尾 淳 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 近藤 祐史 厚生労働省 健康危機管理・災害対策室 斎藤 智也 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター 富永 隆子 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 中島 一敏 大東文化大学 スポーツ・健康科学部 大西 光雄 国立病院機構大阪医療センター</p> <p>スケジュール</p> <p>4月8日(月)2限(10:25~12:10) 東 尚弘 序論</p> <p>4月15日(月)1限(8:30~10:15) 富尾 淳 (国立保健医療科学院) 地域における健康危機管理</p> <p>4月15日(月)2限(10:25~12:10) 近藤 祐史 (防衛省) 災害医療の体制・対応</p> <p>4月22日(月)1限(8:30~10:15) 斎藤 智也 (国立感染症研究所) 感染症危機管理・Bio Security</p> <p>4月22日(月)2限(10:25~12:10) 富永 隆子 (量子科学技術研究開発機構) 放射線危機管理</p> <p>5月13日(月)1限(8:30~10:15) 中島 一敏 (大東文化大学) 感染症-FETP、アウトブレイク対応</p> <p>5月13日(月)2限(10:25~12:10) 大西 光雄 (国立病院機構大阪医療センター) 化学物質の対応・危機管理</p>		
教 科 書	なし		
参 考 書	「感染症予防必携 第3版」(日本公衆衛生協会、2015年)		
成績評価の方法	出席(50%)及び最終レポート(50%)に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	他学部聴講者については初回授業時に責任教員にその旨を伝えること。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	東 尚弘、稲田 晴彦、竹上 未紗		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	実習先（保健所、市役所など）における実習計画に基づいて行う。 実習期間は受入先との相談の上決定する。		
教 科 書	なし		
参 考 書	「衛生行政大要 改訂第 24 版」（日本公衆衛生協会、2016 年）		
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)を目安に評価するが、いずれも必須である（合否で判定）。		
他の授業との関連・履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康危機管理学」の履修を必須とする。 2. 本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格（医師・保健師・看護師）を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数は限られる（1~2名）。 3. 学外での実習となるため、交通費などは学生が負担する。 4. 説明会を健康危機管理学の講義に引き続き行う。日時は決まり次第 UTokyo LMS で連絡する。 		

科 目 名	環境健康医学		
タ 一 ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 5		
担 当 教 員	KIM YOONHEE		
授 業 の 目 的	This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air pollution, water pollution, weather and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.		
授 業 の 方 法	Lecture and group discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	#1. April 5 Basic principles of environmental health #2. April 19 Pollution and health: global estimates #3. April 26 Health effect assessment #4. May 10 Environmental exposure assessment #5. May 17 Heavy metals and health effects (Dr. John Ji, Tsinghua University, China) #6. May 24 Air pollution and health (1) #7. May 31 Air pollution and health (2) #8. June 7 Water, Sanitation and hygiene (WASH) (Prof. Taro Yamauchi, Hokkaido University) #9. June 14 Air pollution and health (3) (Dr. Whanhee Lee, Pusan National University, South Korea) #10. June 21 Climate and health (1) June 28 Break #11. July 5 Climate and health (2) #12. July 12 Climate and health (3) #13. July 19 Climate and health (4)		
教 科 書	•Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. (2008) Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford. •Some additional research articles will be provided every lecture.		
参 考 書	•Ray M. Merrill. (2008) Environmental epidemiology: principles and methods. Jones and Bartlett Learning. •Paul Wilkinson. (2006) Environmental epidemiology. Open University Press.		
成績評価の方法	20% Attendance and attitude 60% Short reactions (four times) 20% Final term paper		
他の授業との関連・履修上の注意	•All lectures are given in English. •All assignments should be written/presented in English.		

科 目 名	公共健康情報学		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3, 金 4		
担 当 教 員	小山 博史		
授 業 の 目 的	<p>公共健康情報学入門の目的は、健康管理や予防活動を改善するための健康情報学および健康情報技術の方法論と概念に関する知識を得ることです。それは、現在あるいは将来、国や地方自治体でパブリックヘルスの専門家として働く際に情報学を利活用したい人を対象としています。The goal of the Introduction of the Public Health Informatics (PHI) is to offer the grounding in methods and concepts of health informatics and health information technology for application to public health and population health. It is designed for current and future public health professionals who wish to develop PHI expertise or specialization to work in policy or management.</p>		
授 業 の 方 法	<p>非常勤講師の先生による講義形式（予定）：Lecture (about 70 min.) + Discussion (about 35 min.)</p> <p>上記以外 基本ケースメソッドを用いた講義を予定しています。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>(講師の都合で日程等変更の可能性あり)</p> <p>6月7日(金) 13:00-16:40: 公共健康情報学とは(小山)第1章~3章 公共健康情報システムと情報システムの基礎(小山)第4章~5章 討論</p> <p>6月14日(金) 13:00-16:40: 情報化戦略と情報システム開発(小山)第6~7章 情報化プロジェクトマネジメントと評価(小山)第8~9章 討論</p> <p>6月21日(金) 13:00-16:40: 情報セキュリティの基礎(小山)第10章 パブリックヘルスにおける情報倫理(小山)第11章 討論</p> <p>6月21日(金) 13:00-16:40: サーベイランスシステム(小山)第12章 地理情報システム(小山)第13章 討論</p> <p>6月28日(金) 13:00-16:40: 近年の高齢者介護政策とデータヘルス 災害医療情報システム(小山)第14章 討論</p> <p>7月5日(金) 13:00-16:40: がんゲノム医療概観 電子検査報告システム(小山)第15章 討論</p> <p>7月12日(金) 13:00-16:40: GIS入門(小山)</p>		

	<p>いま医療情報・健康情報から見えるもの：より良い「意思決定」は可能か？ 討論</p> <p>7月19日（金）13:00-16:40： がん情報提供等の現状と課題 予防接種登録システム（小山）第16章</p> <p>7月26日（金）13:00-16:40： 情報システムの評価法（小山）第9章 総合討論：現状のパブリックヘルスの課題と将来への展望</p>
教科書	<p>公共健康情報学入門. 共立出版. https://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320124585</p>
参考書	<p>Magnuson, J.A., Fu, Jr., Paul C. (Eds.). Public health informatics and information systems. Springer; 2nd ed. (2013/12/19)</p>
成績評価の方法	<p>成績評価方法 ／Grade Evaluation（下記の予定） 出席討論（約30%）、小テスト（約30%）、期末テスト（約40%）</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>Zoomを用いたオンラインでの講義を予定していますのでネットワーク等の環境の準備をお願いします。</p>

科 目 名	公共健康情報学演習		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3, 金 4		
担 当 教 員	小山 博史		
授 業 の 目 的	<p>授業の目標・概要：世界中の情報学者は、私たちが人間の健康を改善するために情報をよりよく利用することを可能にする進歩をしています。公衆衛生情報学のためのこの演習では、Python と VR テクノロジーを使用した将来の健康情報学に焦点を当て、研究者、研究チーム、情報専門家、および管理者が使用できる実用的な知識とスキルを提供します。</p> <p>/Informaticians around the world are making advances that enable us to better use the information to improve human health. This exercise for Public Health Informatics focuses on the future of health informatics using R software and VR technology and provides practical knowledge and skills that investigators, research teams, informaticians, and administrators can use.</p>		
授 業 の 方 法	<p>演習についての印刷資料をもとに自分の PC を用いて演習を行う予定です。PC は持参してください。データサイエンスと機械学習、空間疫学入門には QGIS 用いる予定です。医療用 VR アプリ開発入門ではスマホで体験できる VR アプリを UNITY などの開発キットを用いる予定です。各演習は、基本的に演習用の資料を用いて行います。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>演習内容（講師の都合により変更の可能性あり）：</p> <p>10月4日（金）13:00-16:40： データサイエンス入門：パブリックヘルス分野の基本的なデータ処理法を Python を用いて演習を行います。</p> <p>10月11日（金）13:00-16:40： 機械学習入門1：パブリックヘルス分野のデータを用いたデータマイニングについての演習を行います。</p> <p>10月18日（金）13:00-16:40： 機械学習入門2：パブリックヘルス分野のデータを用いたデータマイニングについての演習を行います。</p> <p>10月25日（金）13:00-16:40： 空間疫学入門（疾患地図等）：疾患地図とは、疾患への罹患・死亡の危険性（リスク）を主題とする一種のリスクマップのことです。パブリックヘルス従事者には大変重要な情報の一つです。ここでは R を用いた疾患地図の作成についての演習を行います。</p> <p>11月1日（金）13:00-16:40： 医療用 VR アプリ開発入門1：パブリックヘルス分野での VR アプリとして認知症の理解と共感や健康増進アプリ等が現場で活用されるようになってきました。ここでは、VR 開発キットを用いた簡単な 360 度映像を用いた実写 VR アプリの開発の演習として開発用ソフトの使用方法についての演習を行います</p> <p>11月8日（金）13:00-16:40： 医療用 VR アプリ開発入門2：実習用の 360 度動画を用いて簡単なアプリを作成する演習を行います。</p> <p>11月15日（金）13:00-16:40 医療用 VR アプリ開発入門3：実習用のアバターを用いて簡単な VR アプリを作成する演習を行います。</p>		

	11月22日(金) 13:00-16:40 医療用VRアプリ開発入門4:パブリックヘルス分野で利用するVRアプリのシナリオを作成し、360度動画撮影し、作成したVRアプリをHMD等で体験し、評価する演習を行います。
教科書	演習についての印刷資料予定
参考書	Python、UNITYについては数多くの書物がでています。また、インターネット上の教材もあるので参考にしてください。
成績評価の方法	レポート(約50%)、アプリ(約50%)
他の授業との関連・履修上の注意	使用するPCは持参してください。

科 目 名	環境健康医学研究方法論		
タ 一 ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 4, 月 5		
担 当 教 員	KIM YOONHEE		
授 業 の 目 的	This course introduces students to the advanced methodologies to investigate the short-term effects of environmental risk factors on human health. It will provide basic concepts, study designs, and statistical regression models using time-series data that have been widely used and intensively developed for the last few decades in the field of environmental epidemiology. Students will be able to interpret time-series data and regression models and acquire skills to apply the methodologies through hands-on practice using R.		
授 業 の 方 法	Lecture, practical and group discussion		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	#1. June 3 (Period 4) Introduction to special study designs in environmental epidemiology #2. June 3 (Period 5) R basics (1) #3. June 10 (Period 4) R basics (2) #4. June 10 (Period 5) Descriptive analysis (1) #5. June 17 (Period 4) Interrupted time-series (ITS) regression model #6. June 17 (Period 5) Practice for the ITS regression analysis #7. June 24 (Period 4) Descriptive analysis (2) (online) #8. July 1 (Period 4) Time-series (TS) regression model #9. July 1 (Period 5) Practical for the TS regression modeling #10. July 8 (Period 4) Time-stratified case-crossover (TSCCO) design #11. July 8 (Period 5) Practice for the TSCCO analysis #12. July 22 (Period 4) Two-stage design #13. July 22 (Period 5) Practice for the two-stage meta-regression analysis		
教 科 書	Roger D. Peng and Francesca Dominici. 2008. Statistical Methods for Environmental Epidemiology with R: A Case Study in Air Pollution and Health. Springer. Roger D. Peng. 2016. R programming for data science. http://leanpub.com/rprogramming Roger D. Peng		
参 考 書	Adrian G. Barnett and Annette J. Dobson. 2010. Analysing Seasonal Health Data. Springer. Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. 2008. Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford University Press.		
成 績 評 価 の 方 法	30% Attendance & attitude, 60% Assignments (four times), 30% Final term paper		
他 の 授 業 と の 関 連 ・ 履 修 上 の 注 意	- All lectures are given in English. - All assignments should be written in English. - It is recommended to take this course for a student who has basic statistical knowledge such as p-value and confidence interval. - All classes will be primarily give		

科 目 名	インターンシップ		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。なお本コースは公共健康医学専攻修士課程の学生に対してのみオープンとなっている。		
授 業 の 方 法	<p>学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受入先（上記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受入先の状況に応じて受入先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。</p> <p>*募集期間 5月中旬および1月下旬</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>8～9月中の2～3週間（募集5月中旬）または3月中の2～3週間（募集1月下旬）の期間での実施を原則とする。</p> <p>インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。</p> <p>○受入先一覧</p> <p>No インターンシップ受入先及びテーマ（予定）（括弧内は担当教員・部署）</p> <p>1. NPO メンタルケア協議会（医学部大学院係）</p> <p>①東京都自殺相談ダイヤル相談記録に基づく相談者傾向の分析等</p> <p>②東京都精神科救急医療情報センター相談記録に基づく救急医療利用の傾向変化についての分析等</p> <p>③自殺未遂者対応連携支援事業における G・P 連携の効果評価</p> <p>2. 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部（松山教授）</p> <p>①臨床研究現場の見学：臨床試験・研究の立案プロセス等を知り、医療機関で働く生物統計家や臨床試験・研究に関する専門家の役割を学ぶ</p> <p>②臨床試験データの解析演習</p> <p>3. 国立保健医療科学院（松山教授）</p> <p>医療技術や医薬品等の費用対効果の評価と活用</p> <p>4. 株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ）（医学部大学院係）</p> <p>保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務など</p> <p>5. リンクアンドコミュニケーション 健康関連アプリ、生活習慣サポートシステムなどの開発・調査など</p> <p>6. 国立成育医療センター 社会医学部門 政策部門 研究補助、政策資料作成補助など</p> <p>7. 上記以外に川崎市などの自治体でのインターンシップ（検討中；詳細は専攻長まで）</p> <p>上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。</p>		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席（30%）、実習態度（30%）、インターンシップ報告書（40%）に基づいて評価する。		

他の授業との関連・履修上の注意	インターンシップ参加決定後の問題点等は、指導教員（研究室配属されていない場合には専攻長）と相談の上、窓口教員あるいは大学院係まで インターンシップ先での事故等に関する責任・保険の必要有無、インターンシップ先との守秘義務契約など事前に相談が必要となるものについては指導教員および専攻長に早めに連絡を
-----------------	---

科 目 名	公共健康医学特論		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 4, 月 5		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	public health の歴史、意義、社会的要請を理解し、public health の実践者・研究者として求められる規範・視野・資質 (competency) を自ら育んでいく基本的姿勢を講義・討論を通じて修得する。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の教員と外部講師による講義を行う ・テーマごとに資料が配布される 		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 4/8 14:55-16:40 public health の歴史と SPH の誕生 (康永) 2) 4/8 16:50-18:35 MPH になにが求められるか (橋本) 3) 4/15 14:55-16:40 public health の実践と理論 (村上) 4) 4/15 16:50-18:35 質疑応答+ (橋本・脇ほか) 5) 4/22 14:55-16:40 public health と政治倫理 (中澤) 6) 4/22 16:50-18:35 データベースとパブリックヘルス (松居) 7) 5/13 14:55-16:40 「新しい保健所」を見る (橋本) 8) 5/13 16:50-18:35 行政から見た公衆衛生 ; 災害対策・危機管理 (坂元 昇 川崎市健康福祉局 医務監) 9) 5/20 14:55-16:40 コミュニケーションとパブリックヘルス (奥原) 10) 5/20 16:50-18:35 経営学とパブリックヘルス (井田) 11) 5/27 14:55-16:40 ゲストスピーカー (TBA) 12) 5/27 16:50-18:35 総合ディスカッション 13&14) 5/29 予備日		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回の出席と発言 (50%)・レポート (50%) を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	他の授業のすべてと関連を有する。		

科 目 名	課題研究		
タ ー ム	S 1	単 位 数	6
曜日・授業時間帯	集中		
担 当 教 員	各教員		
授 業 の 目 的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4月～12月 課題研究 2025年1月10日（金）全日 課題研究発表会		
教 科 書	特になし		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）で評価する。		
他の授業との関 連・履修上の注意	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）を発表会にて評価する。		

6. 公共政策大学院との合併科目について

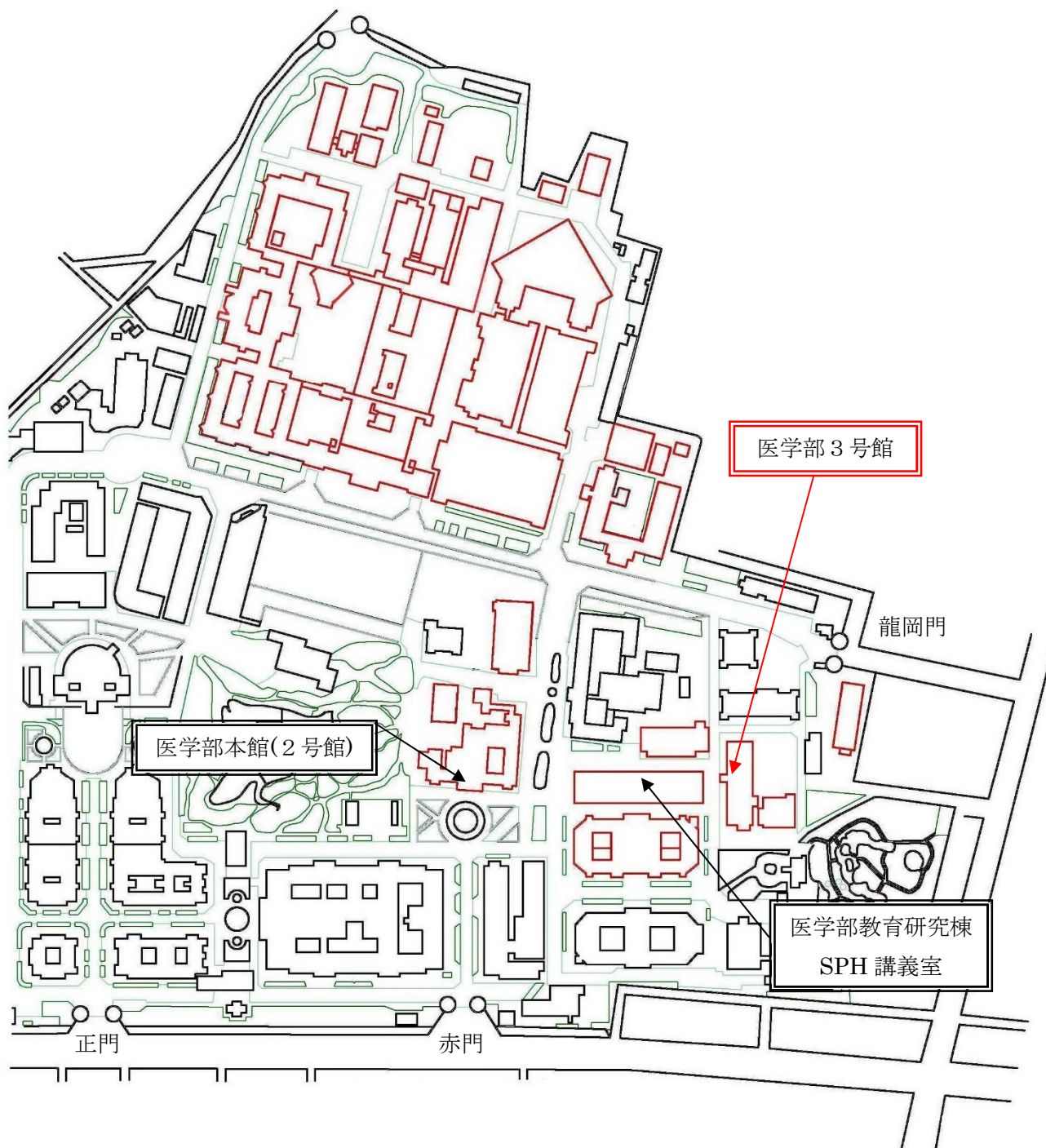
科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
41418326	社会保障政策 (政策の理論の展開) (鈴木)	2	A1・A2	金	5	国際学術総合研究棟 4 階 SMBC ホール ※変更の可能性があるため UTAS でも確認のこと。

科 目 名	社会保障政策（政策の理論の展開）		
タ ー ム	A 1・A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 5		
担 当 教 員	鈴木 俊彦		
授 業 の 目 的	<p>1. 状況認識・課題認識</p> <p>社会経済、国民生活の中で、社会保障は、現在及び将来にわたり非常に大きな比重を占め、現代行政における社会保障行政の重要性はますます増大している。一方、人口減少・少子高齢化、社会経済の構造変化など、社会保障を取り巻く環境・状況は大きく変貌しつつある。その中で社会保障に関して、どのような政策を展開し、どのような保障の形を選択していくかは、「国のかたち」にも関わる重要な問題である。</p> <p>2. 狙いと目標</p> <p>こうした状況認識・課題認識に立ち、長年にわたり社会保障政策の責任者として立案・実施に当たってきた経験を踏まえ、我が国の社会保障の現状と課題、社会保障に関する今後の改革の方向性等について解説し、社会保障政策の在り方を考える上での基本的枠組みと視点を提供する。講義の中では、現役の事務次官、局長クラスの政策責任者など関係者との対話を通じて、政策の構築と展開のダイナミズムを共有するとともに、政策を取り巻く最新の状況を把握し、理解と考察を深める。</p> <p>3. 具体的な構成</p> <p>① 総論として、人口構造の変化、社会経済の変化、国民生活の変化、国際比較等を明らかにしつつ、社会保障政策がどのように構築されてきたか、我が国の社会保障の現状と課題等を概観する。</p> <p>② 各論として、医療、介護、年金、人口減少対策等を中心に、社会保障の主要分野の現状と課題、今後の政策の方向性等について、政策責任者等の説明を聞くとともに、意見交換を行う。</p> <p>③ 以上を踏まえ、社会保障政策の今後の方向性に関する論点について掘り下げて分析し、総括として今後の社会保障と我が国社会の在り方について考察する。</p>		
授 業 の 方 法	<p>対面授業（国際学術総合研究棟 4階 SMBC ホール）を基本とする。</p> <p>（なお、やむを得ない事情により教室での講義に参加できない者のために、オンラインでの同時配信を併せて行うハイブリット方式も検討中。）</p> <p>講義形式を主としつつ、双方向的授業の要素を取り入れる。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>概ね以下のとおり予定する。</p> <p>1.序論 -この授業で目指すこと</p> <p>2.総論</p> <p>社会保障政策の歴史と理論</p> <p>我が国の社会保障の全体像とこれを取り巻く諸状況、課題の概観 （論点として、人口構造、社会経済状況、地域、社会保障給付費、財政、国際比較等）</p> <p>3.各論</p> <p>主要分野の政策・制度の現状と課題</p> <p>※ 各分野の現役行政官（本省事務次官・局長クラス）の参加・解説を通じ、政策の構築と展開のダイナミズムを共有する。</p> <p>(1) 医療（医療提供体制、医療保険等）</p>		

	<p>(2) 介護（介護保険等）</p> <p>(3) 年金（公的年金制度、私的年金等）</p> <p>(4) 次世代育成支援（人口減少対策、子ども・子育て支援等）</p> <p>(5) 生活保護・生活困窮者自立支援 等</p> <p>4.総括</p> <p>今後の社会保障政策の展開方向を考える視点</p> <p>2. で概観した課題について、3. で深めた理解を踏まえ、掘り下げた分析、考察を行う。</p> <p>（2040年を展望した社会保障改革、今後の社会をどう考えるか 等）</p> <p>5.まとめ</p>
教科書	毎回の講義に用いる資料を ITC-LMS 上に掲載する。
参考書	<p>1. 社会保障の理論と歴史、論点について「平成24年版厚生労働白書（第1部 社会保障を考える）」に、社会保障の近年の状況と動向については「令和2年版厚生労働白書（第1部 令和時代の社会保障と働き方を考える）」に、それぞれ概説されており、これらを参照すること。</p> <p>いずれも、以下からダウンロード可能である。</p> <p>https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/index.html</p> <p>2. その他の参考書については、各回の講義において、適宜紹介する。</p>
成績評価の方法	レポート（80%）、授業参加状況（20%）
他の授業との関連・履修上の注意	毎回、講義に用いる資料をあらかじめ ITC-LMS 上に掲載するので、各自ダウンロードの上、事前に目を通した上で授業等に臨むこと。

7. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	場所
P.	41422111	国際保健政策学特論 I (橋爪)	2	S1・S2	火	3	医学部 3 号館 N507
P.	41422112	国際保健政策学特論 II (橋爪)	2	A2・W	火	3	



科 目 名	国際保健政策学特論 I	[科目番号：41422111]	
タ ー ム	S1S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3		
担 当 教 員	橋爪 真弘		
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題の論点および理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、地球環境問題と健康、疾病負荷、健康格差、健康の社会的決定要因等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges, discusses key issues in improving global population health, as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret these issues and challenges for policy. Topics will include global health policy and governance, global burden of diseases, global environmental change, environmental health, health equity, infectious disease surveillance, non-communicable diseases and prevention, maternal and child health, health risk assessment, etc.</p>		
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>4月9日から7月16日まで (ITC-LMSのお知らせを確認してください) From April 9th to July 16th (refer to announcements on ITC-LMS)</p> <p>講義スケジュール (予定) Tentative course schedule is as the following (order may change):</p> <p>Lecture topic:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Health effects of dust and haze exposure 2. Global environmental change and health 3. Temperature and mortality 4. Innovations in maternal and child health 5. Evidence synthesis for global health research 6. Overview of global burden of disease 7. Health impact assessments in environmental health 8. Seasonality assessment in epidemiology 9. Equity in health and universal health coverage assessment 10. Climate change mitigation policy 11. Sustainable development goals: global policy and health agenda 		

	12. Air pollution and health 13. Revision and discussion
教科書	課題図書は ITC-LMS で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via ITC-LMS one week before each lecture.
参考書	課題図書は ITC-LMS で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via ITC-LMS one week before each lecture.
成績評価の方法	宿題(60%)、授業への参加(40%) Problem sets (60%), class participation (40%)
他の授業との関連・履修上の注意	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.

科 目 名	国際保健政策学特論 II	[科目番号：41422112]
タ ー ム	A2W	単 位 数 2
曜日・授業時間帯	火 3	
担 当 教 員	橋爪 真弘	
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題の論点および理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、地球環境問題と健康、疾病負荷、健康格差、健康の社会的決定要因等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges, discusses key issues in improving global population health, as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret these issues and challenges for policy. Topics will include global health policy and governance, global burden of diseases, global environmental change, environmental health, health equity, infectious disease surveillance, non-communicable diseases and prevention, maternal and child health, health risk assessment, etc.</p>	
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p>	
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>10月8日から1月28日まで (ITC-LMSのお知らせを確認してください) From October 8th to January 28th (refer to announcements on ITC-LMS)</p> <p>講義スケジュール (予定) Tentative course schedule is as the following (order may change):</p> <p>Lecture topic:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Planetary health 2. Global mental health 3. Social determinants of health 4. Cancer epidemiology and prevention 5. Comparative risk assessment 6. Global perspectives for disease control and the future 7. Approaches to assessing health risks of smoke haze in the tropics 8. Environment and child health 9. Japan's Global Health Diplomacy in the era of COVID-19 and beyond 10. Nutrition and health 11. Infectious disease surveillance system 	

	12. Revision and discussion
教科書	課題図書は ITC-LMS で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via ITC-LMS one week before each lecture.
参考書	課題図書は ITC-LMS で各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs will be distributed via ITC-LMS one week before each lecture.
成績評価の方法	宿題(60%)、授業への参加(40%) Problem sets (60%), class participation (40%)
他の授業との関連・履修上の注意	受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。 Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and case discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.

公共健康医学専攻成績評価規則

公共健康医学専攻会議
制定 平19. 4. 1
改正 平26. 7. 23
改正 令 4. 11. 16

(成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

(成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。

- A+ 90点以上
- A 80点以上
- B 70点以上
- C 60点以上
- F 不合格(60点未満)

(成績評価)

- 第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。
- 2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。
 - 3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

(成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、明らかにそれが誤りであると思われる場合のみ、所定の様式を大学院担当へ提出し、成績評価の確認を申請することができる。ただし、その申請期間は、成績発表日から1か月以内とし、期間経過後の申請は不可とする。

(筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年11月16日から施行する。